

SEIGAIHA

NIIGATA SANGYO UNIVERSITY

新潟産業大学報 青海波 (せいがいは)

2015
Vol.29

特集 産学官連携を考える 1

CAMPUS TOPICS 3

クラブ・サークル活動 5

図書館だより 6

キャリアサポート 7

BACK TO SCHOOL (生涯学習センター) 9

地域連携センター 10



「水球部 インカレ準優勝！」 (写真の説明は裏表紙)



新潟産業大学
NIIGATA SANGYO UNIVERSITY



産学官連携を考える

「産学官民連携はコミュニティケーションからはじまる!!」 関西ネットワークシステム 世話人 平山 知明氏

近年全国各地で広がりを見せている「産学官民コミュニティ」の活動が、連携の新しい基盤として注目を集めています。新潟県内の高等教育機関で構成する「高等教育コンソーシアム」にいた「産学連携部会平成27年度幹事校：新潟産業大学 新潟県立看護大学」の活動が、先進事例である「コミュニティ」関西ネットワークシステム(KNS)から講師2名をお招きし、研修会を開催しました。

今回の特集は、人と人とのネットワークを組織レベルの産学官民連携に実効的発展させている好例として、当日の講演の内容をご紹介します。

またこの研修会では、本学から宇都宮仁専任講師が新潟産業大学における「産学官民」連携事業の取組みの演題で活動報告を行いました。

(平成27年11月12日(木) 新潟大学駅南キャンパスとぎめいとにて開催
構成：メディア・広報・企画課)

新潟産業大学における「産学官民」連携事業の取組み

新潟産業大学 専任講師 宇都宮仁

「産学官連携から想起されるイメージは、企業と理工系・技術系大学の「知的財産の継承」と企業の「経済活動」「利潤追求」「先行投資」から興される新技術の研究開発や新事業の創出が従来の産学連携の接点でした。

これに対して、社会科学系大学における産学官連携のキーワードは「社会貢献の機能」それに住民の「民」を加えた「産学官民連携による社会貢献」です。

本学でも、柏崎市から委託された「まちかど研究室」による地域活性化や「風輪通貨の流通実験」などの地域連携を軸にして、産学官民が集う形で連携が展開されています。

社会科学系大学の産学官連携は「産官の「コーディネート」、連携の組織づくり」、各教員の専門性を生かした活動を行う「こと」を大学の役割として、社会貢献・地域活性化という共通の目的のもとに、産学官民が



これまで、産学官民連携が上手くいかない、という話をいろいろな方面で耳にしています。

従来の考え方ではお会いの場・マッチングの機会を設ければ、成果は必ずと生まれる、とされてきました。しかし現実には、よく分からない知らない相手とビジネスはできませんし、躊躇するのが普通です。その状況からいきなり成果を出すのは困難でしょう。

枠組みを作ったことに満足し、そのまま放っておいて後は成立した連携の件数等をもってプロジェクトの成否を

計るのでは、期待された結果とならなことが多くと思います。

では、連携を成功させるためには何が必要なのでしょう。

KNSの基本コンセプトは、「顔の見える関係づくり」であり、「コミュニティ」の形成を主眼に置いています。「成果」の部分に関しては、「顔の見える関係性」が構築できれば、必ずと後から追従してくるものであると捉えています。KNSの活動の中では「積極的な枠組みづくり」は必ずしも必須ではありません。実際に交流が深まり、仕事上だけの付き合いや肩書を背負った関係ではなく、なごやかなると、人と人の繋がりの中で、元気をもらったり、モチベーションを高めたり、刺激を受けたり、という感情の部分が強くなってきます。そうすると、関わった人みんな笑顔になり、という気持ち、信頼性の醸成が連携を成功させる原動力になります。即ちこれが、産学官民連携はコ



「本番」なのです。これまで13年間の活動の中で、週1回以上のペースで交流している計算になります。主役は、参加しているメンバー各々自身であり、だからこそ、「コミュニティ」を大事にするのです。

特定の代表や事務局を置かず、世話人を中心としたメンバー全員が同等の立場で活動するKNSは予定不調和かつ野心的な団体です。成果を求め目的があるわけではなく、「コミュニティ」を深めることに専心し、結果として異業種連携等の関係が結果としてもそれをKNSの成果として外部に宣伝はしていません。

「顔の見える関係」の構築は「朝夕」にできるものではありませんが、「コミュニティ」という「場」を提供し、そこで各々が主体的・積極的に参加することによって人と人との良好な関係性が醸成され、そこから発生するイノベーションに期待したいと考えています。

「インフォーマルコミュニティとフォーマルコミュニティの関係性」 関西ネットワークシステム 世話人 領家 誠氏

フォーマルコミュニティの構築

「インフォーマルコミュニティ」は、私が個人として参加しているKNSのことであり、「フォーマルコミュニティ」は私が職務上携わった大阪府のものづくり支援、産学官連携や地域産業のイノベーションを支援する公的なネットワークを指しています。

平成20年度に大阪府の商工労働部の総合商社化の方針が打ち出され、ものづくり中小企業支援に対して府職員自らが出陣し、コーディネート

させました。

そして、若手ネットワークシステム(INS)からKNSに引き継がれた手法、即ち「枠組み」よりも「人と人とのコミュニティ」を重視するやり方をこれに反映させました。つまりインフォーマルコミュニティのフォーマットをフォーマルコミュニティに落とし込んだことになりました。

EGのおおさか

MOBOOが3年目に入ること、KNSにおける「コミュニティ」の中で「エゴニックゲーディング」という概念に出会いました。

これは、アメリカの小さな町から始まった、企業誘致に頼らず地元企業が成長する環境を整備するという地域経済活性化策です。「中小企業政策」と「地域政策を融合させ、企業家精神あふれる地元の中小企業が長生きして繁栄するようなビジネス環境を創出する」のです。

地域の企業を発掘・育成し、変革と挑戦に取り組みビジネス環境を整備する点、そして実践から積み上げた理論であるという点において、これまでの府の取り組みと共通点が多いと直感し、MOBOOの第2期アクションプランの活動指針を、大阪版エゴニックゲーディング、通称「EGおおさか」としてものづくり中小企業の自律的な「変革と挑戦」を支援する「こと」にしました。

インフォーマルコミュニティとフォーマルコミュニティの関係性

私を取り巻くインフォーマルコミュニティとフォーマルコミュニティは、お互いに影響し合いつながりながら人と人の繋がりの連鎖を生み、その結果として企業・地域リーダー・キーパーソンの連携に結びついています。第1段階では、KNS流のネットワークのコンセプトを理解するために積極的にKNSに参加して関わりを持ち、第2段階ではそこで培われた人的ネットワークをMOBOOに活用し、第3段階でそれを発展させて公的支援機関のフォーマルネットワーク(EGおおさか)を構築して、そこに人材養成機能を持たせ、現在第4段階として、養成された「地域経済コンシエルジュ」がKNS定例会で発表を行うという相互交流、あるいはKNSへの人的リソースを還元する流れが形成されています。

フォーマルコミュニティの課題

「組織」と「個人」の関係があります。どこまでが職務なのか、どこからが自分の自由意思による活動なのかの線引きが非常に難しい、ということです。コミュニティメンバーも、職務としてのスキル修得に重点が置かれる傾向も見られます。

もう一つの課題は、インフォーマルネットワークが個対個の関係性から双方向の「コミュニティ」が容易であることにに対し、フォーマルネットワークでは、組織や肩書を背景に活動する関



係上、ほぼインフラ中心の関わりに陥りやすいことです。

しかし、あえて公的機関の中にインフォーマルなネットワークを持ち込むこと自体に意義があると考えています。それは参加者の意識を間違いなく変革しており、この方法論に適應したメンバーの間からは、大きな連携も生まれています。

やさしい

「コミュニティ構築成功のカギは、外部ネットワーク、企画力、合意形成力、組織内のプレゼンス(存在感)が重要で、加えて現在完璧でなくても「あるべき姿」を目指して粘る力が必要であると私は考えます。

そうして出来上がった「コミュニティ」の活動を通じて、醸成される個人の課題意識を組織のミッションに昇華させ、社会の仕組みの変革や新しい連携について強い思い入れを持ちながら問題解決にあたる人材を増やしていきたいと思っています。



それぞれ組織の強みを生かして成果を上げることが重要だと考えます。

KNSとは

関西ネットワークシステム(KNS)は関西を中心とする全国の、「肩書きを脱ぎ捨てた個人」から構成される異分野(産学官民)コミュニティ。若手ネットワークシステム(INS)をモデルに平成15年に設立されました。

KNSメンバーの間では、所属や肩書きを超えた「コミュニティ」から始まる、「ビジネス、共同研究プロジェクト等の連携が行われています。



平成22年4月に大阪府のものづくり支援課が移転し、名称もMOBOO (Monodzukuri Business Information-center Osaka)に、新たに支援拠点としての機能を充実

ぎおん柏崎まつりに
産大みこし参加

7月25日(土)午後6時、「ぎおん柏崎まつり」二日目のたる仁和賀パレードに、北原保雄学長を先頭に、水球部員と卓球部員、留学生を中心とした学生35人、教職員10人が「新潟産業大学みこし」で参加しました。

初めて本学がたる仁和賀パレードに参加したのは平成14年。平成19年の中越沖地震による中止などもありましたが、平成27年で11回目の参加を数えます。スクールカラーのスリーブブルーの祭り法被と又引きも随分年季が入ってきました。今回は、「地元」に学んで地元をおこす」をテーマに、学生主体のみこしに発展させることが目標で



した。練習無しのブツケ本番でしたが、パレードの終盤では、経済学部経営学科2年生神谷省吾君、同学科2年生白川大地君、同学科2年生羽田麟太郎君がみこし先導役後継者として一本立ちしました。パレードの実行委員会本部前と協賛会本部前の二か所では、経済学部経営学科3年生の宮澤偉太君が、学生代表として清々しく口上を述べ、全員で威勢良く三本締めをきめました。当日、日中は気温38度、夜になっ



てもなかなか暑さが引かない猛暑日の中、新潟工科大学みこしや踊り屋の団体、各町内の山車、沿道の観客とも手拍子やエールを交わし交流を深めることができました。準備や慰労会の場所をお貸しくださった不動院さん(東港町)に感謝します。

紅葉祭を開催
しました

10月31日(土)と11月1日(日)、本学キャンパスで学園祭「第27回紅葉祭」が開催されました。平成27年度のテーマは「COLORS」産

大の色は何色、大学の「青」というスクールカラーにとらわれず、学生達が様々な出会いを通じて個々の色(個性)を発信し、その交流がまた新たな産大のカラーを作り出すことへの期待を表現しています。

初日、学生行事実行委員長の開会宣言で紅葉祭がスタート。朝からときおり雨が降るあいにくの天気でしたが、メインステージでは軽音楽部がお約束の熱烈ライブ、続いて留学生交流会がモンゴルやチベットの歌謡披露、そして市内のダンススクールに通う小中高生約70人による庄巻のヒップホップダンスが繰り広げられました。

キャンパスの至る所で開催されたイベントは、芸術文化部による刀剣や扇などの舞踊、柏崎市出身で音楽家のカンケ氏による文化講演会(父母の会主催)などをはじめ、ゼミのポスターセッション、学生が育てたお米販売、茶道部茶会、PCイラストコーナー&まちかど研究室・書道部・写真部の各展示、各部サークル等活動報告などが行われました。また、学園祭で相互交流を行っている新潟工科大学学友会によるちびっ子お楽しみブースが設けられ子供たちに大人気でした。

ミニオープンキャンパスが併催



された二日目は、昼過ぎから秋晴れの陽気に恵まれました。柏崎総合高校の生徒のみなさんの協力を得た吹奏楽部による演奏が盛大に行われ、中庭では、本学生も参加している「よさこい」の2チームが大勢の来場者の前で威勢よく踊りを披露しました。昨年同様にからフルな衣装、たなびく大旗、踊り手の快活な表情が印象的でした。

またモンゴル相撲大会や救急法講習会、JICA(青年海外協力隊)活動展示などが行われました。そして午後2時からメインイベントのお笑いライブが体育館で開催されました。今年はお笑い

芸人の「天狗」「もう中学生」(よしもとクリエイティブエージェンシー所属)の登場です。それぞれの持ちネタで会場内を大爆笑の渦に巻き込みました。

今年度の紅葉祭は、両日合わせて約1,000人の来場がありました。スタッフ一同、心からお礼申し上げます。



インカレで水球部が
準優勝!

第91回日本学生選手権水泳競技大会(水球競技)が、9月4日から9月6日の3日間、神奈川県相



模原市立総合水泳場で行われ、本学男子水球部が見事過去最高成績の準優勝を果たしました。

通称「インカレ」と呼ばれるこの大会、新潟産業大学水球部は中部学生水球選手権で優勝し、全国の地区予選を勝ち上がった全16大学の1校として出場しました。

初戦で昨年3位の専修大学を8-7で下すと、勢いに乗って準々決勝は16-9で明治大学に圧勝。準決勝では昨年の準優勝校である早稲田大学をペナルティスコアで末11-9でかわして決勝に進出しました。

決勝は大会17連覇している日本体育大学に3-20で敗れましたが、平成5年の初出場以来、毎回インカレに出場し挑戦を続けた本学水球部は、今回ついに念願の上位入賞の結果を残しました。



北原学長に準優勝を報告する志田主将

指導者に青柳勸監督が就任して6年。日本人初のイタリアセリエAプロ契約選手、欧州チャンピオンズリーグ出場等の豊富な海外経験と、史上最年少で日本代表に選出され長年にわたりエースとして活躍し主将も務めた経歴をもつ青柳監督の指導の下、水球部は男子女子ともに全国トップクラスの實力を蓄えました。

在学中に女子日本代表に選出された小出来さん(H27卒)ブルボンKCは、この夏イタリアセリエAチームのCosenzaと契約を結びました。

また、濱田周君(経経)は「第28回ユニバーシアード競技大会(水球・男子)メンバーにチーム最年少で選出され、10得点をあげて日本代表チームの主力選手として活躍したほか、「2015世界ジュニア選手権大会」にも出場し、今後の日本代表、ポセイドンジャパンへの招集が期待されています。

一方今年の4月、柏崎市の小学生から社会人までの各年代の水球チームが「柏崎ウォーターポロクラブ」に一体化され、本学水球部は、男子はこのクラブの「KZU22」を、女子は「KZW」を担うことになりました。

社会人チーム「ブルボンKC」は、多くの日本代表選手が在籍し、日本選手権では常に優勝を争うチームです。このトップチームと一緒に練習できる環境に魅力を感じて、有望な選手が本学入学を志すようになりました。そして彼らが地元小学校の体育(水球)の授業で指導し柏崎市の水球文化の裾野を広げ、地域の行事に積極的に参加して「水球のまち」を身近に感じられる存在として認知されることで、地域貢献にも好循環が生まれています。

今回の準優勝は、部員たちの努力の賜物であることはもちろんで



濱田君(右)、北原学長、青柳監督



小出さんの加入を伝えるCosenzaのWebサイト

すが、その背景として、株式会社ブルボン、本学、新潟県、柏崎市、そして市民という、産学官民連携のプロジェクトによって導かれた成果、と考えられます。

インカレ制覇を目指して、頑張れ、新潟産業大学水球部!そして2020年の東京オリンピックでは開催国としての出場も確実視される水球競技において、「水球のまち柏崎」が育んだ選手たちが大活躍する姿を今から楽しみにしたいと思います。

図書館だより



良寛関係書籍コーナー



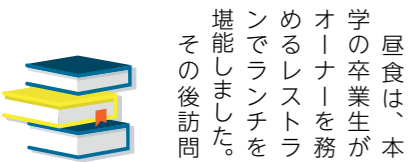
郷土資料コーナー

郷土資料を収集しています

本学図書館では、これまでに、柏崎をはじめ、新潟に関係する郷土資料を収集してきました。市史や町史・村史はもとより、郷土の偉人・歴史・地理…さまざまなジャンルを所蔵しています。もちろん現在も、継続収集中です。特に、「良寛」に関する書籍については、県内大学図書館の中でも有数の所蔵があります。

この郷土資料の中には、本学卒業生で郷土研究をしておられた方や郷土研究団体からの、寄贈図書や寄贈雑誌も含まれており、地域の協力を得ながら、コレクションを進めています。また、年代物の古文書なども所蔵しています。

郷土資料は、地域の財産であることを念頭に置いて、資料収集と保存に努めていきたいと考えています。ご興味のある方、地域のことを調査されている方は、ぜひ本学図書館をご利用ください。



昼食は、本学の卒業生がオーナーを務めるレストランでランチを堪能しました。その後訪問

平成27年度 学生選定書籍(一部)

- ・ 図解トヨタの片づけ
- ・ 伝え方が9割
- ・ 公務員試験で受験生が気になること
- ・ 秘書検定準1級に面白いほど受かる本
- ・ 世界で一番美しい元素図鑑
- ・ まんがでわかるビジュアル「21世紀の資本」
- ・ デジタルカメラによる星空の撮り方
- ・ 星の王子さま
- ・ 教師カトレーニング
- ・ 反転授業
- ・ CSV経営による市場創造
- ・ 教師のすごい! 仕事術
- ・ もういちど生まれる
- ・ ジャイロスコープ
- ・ シンプルに考える
- ・ 青春ロボット
- ・ 感情的にならない話し方のコツ



レストラン「イジカリ」にてオーナー(中央)と



日銀にて:1億円のお札(レプリカ) 持ち体験 重い?軽い?

学外の方も図書館をご利用いただけます。詳細は、お気軽に下記までお問い合わせください。ツイッター・ホームページでも、図書館情報をお知らせしています。

新潟産業大学 附属図書館
0257-24-8435
E-mail: library@ada.nsu.ac.jp



お探しの本や、お好みの本が、見つかるかも知れません。



OPAC画面

OPACをご存じでしょうか?

クラブ・サークル活動



高橋さん(中央)とライフセービング部

しかし、そこで見つけた課題を克服し、早朝練習、ウエイトトレーニングに励んだことが今回の結果に繋がりました。

一緒に活動している部員たち

LSC高橋選手、プールインカレで優勝

11月14日(土)から15日(日)の二日間、千葉県国際総合水泳場(習志野市)で行われた「第7回全日本学生ライフセービング・プール競技選手権大会」において37団体750人が出場するなか、高橋志穂さん(経経2)が種目「女子200mスパーライフセーバー」で見事優勝を果たしました。

春先の大会では好調な成績を維持し、7月に開催された世界大会でユース日本代表チームに選ばれ活躍した高橋さんでしたが、秋のインカレ、全日本選手権では思うような結果が出せなかったことから今年度の個人成績には満足していない、と話していました。

卓球部

男子団体インカレ出場 個人種目も活躍

春季北信越大会(5月16日(土)及び17日(日)、新潟市西総合スポーツセンター)において、卓球部男子が団体種目で15年ぶり10回目となる優勝を果たしました。

北信越代表として7月に出場した第85回全日本大学総合選手権大会(団体部)では、予選リーグは法政大学・龍谷大学と対戦、2位通過で決勝トーナメントに進む結果を残しました。

夏季北信越大会では、

- 男子シングルス 優勝 宮澤 僚太(経経3)
- 男子ダブルス 優勝 齋藤 駿介(経経1) 準優勝 高橋 将知(経経3) ベスト12 宮澤 僚太(経経3)
- 男子ダブルス 優勝 齋藤 駿介(経経1) 宮澤 僚太(経経3) 齋藤 松島卓宏(経経4) 組ベスト6

以上の結果により、4名が第82



春季北信越大会、団体優勝が決まった歓喜の瞬間、古豪復活

空手道部

久我選手が北信越3連覇達成! 1年生が躍動!

春に行われた第41回北信越学生空手道選手権大会(個人)において、久我優希さん(文経3)の大会3連覇を筆頭に、1年生部員が健闘してインカレへの出場権を獲得しました。

【大会結果】

回全日本大学総合卓球選手権大会(個人の部)に出場しました。

また、平成27年度新潟県硬式卓球選手権大会において、齋藤君が男子シングルスで見事優勝し、平成28年1月に開催される天皇杯・皇后杯全日本卓球選手権大会に、準優勝の宮澤君とともに出場します。

秋季北信越大会では、男子ダブルスで宮澤・高橋組が夏季大会に続いて優勝しました。



男子組手 3位 錦織 聖(文経1)
男子組手 ベスト8 永井 怜惟(経経1)
女子組手 優勝 久我 優希
女子形 2位 久我 優希
女子組手 3位 岡本 校(文経1)

秋の第60回北信越大学空手道選手権大会(団体組手競技)でも、男子は優勝、女子も3位の優秀な成績を修め、第59回全日本大学空手道選手権大会に出場しました。

11月に開催された第23回北信越学生空手道連盟 新人戦(個人組手)には、本学から男子4名、女子1名が出場し、男女とも優勝を果たしました。

【男子結果】
優勝: 永井 怜惟
3位: 安達 拓光(経経1)
ベスト8: 錦織 聖

【女子結果】
優勝: 岡本 校

また、永井君と岡本さんは新潟県代表として第43回全日本空手道選手権大会に出場しました。

4年生の就職体験談

平成27年度の就職戦線は、就職活動解禁の三ヶ月後倒しというスケジュールの大幅変更でスタートしました。企業、学生共に手探り状態の活動を余儀なくされた、混乱の一年でした。今回は混乱の一年を乗り切り、内定を獲得した4年生に集まっていたいただき、実際にどのような就職状況であったのか語ってもらいました。

(聞き手：長井就職課長)

「まず、皆さんの学年から就職活動(以下就活)のスタートが後ろ倒しになる事を知ったとき、どのような感想を持ちましたか。」

源通さん：スタートが三ヶ月遅れるということは、就活期間が短くなるということですから、就職できるかすごく不安になりました。

種岡君：私は後ろ倒しになったことにより、今までの先輩方のデータがまったく通用しないのかわからない。先行きの見えない不安を強く感じました。

源通さん：私は部活動が忙しく、就職活動について深く考えていない時期でしたので、あまり気になりませんでした。暑い季節の就活が大変そうだなと。

川上さん：私は三ヶ月後倒しに就活活動が忙しく、就職活動について深く考えていない時期だったので、あまり気になりませんでした。暑い季節の就活が大変そうだなと。



種岡 健太さん
柏崎常盤高校出身

「確かに「余裕」と捉える学生は多かったように思います。就職課では、後ろ倒しについて強い危機感を持っていました。早期の就職指導を心掛けていましたが、意に反してガイダンスの参加率は軒並み低下していました。因みに、この傾向は他の大学でも見られたようですが、今シーズンの就活長期化の大きな要因の一つと言えます。それは、実際に皆さんが就活を始めた時期はいつ頃ですか。また、どんな事から始めましたか。」

川上さん：12月位ですかね。紅葉祭が11月に終わって、引き継ぎをして、12月位によく登録した就活サイトを見たり、小千谷のハローワークに行ったり、どんな人が公開になっているのかを調べたり、話を聞いたりしました。逆にスタートはスパッと切れなかった感じですね。そんな中、ターニングポイントになったのが、2月初めに学内で開かれた「企業研究セミナー」です。企業担当者から直接業界のお話を聞くことで、自身の企業選択の幅が非常に広がりました。



▲就職活動集中対策講座の様子

源通さん：私は地元富山での就職を希望していましたので、1月位には動かないといけないと思い、リクナビや富山県内企業の情報が豊富なアイバック等の就職情報サイト、親や親戚総動員で情報収集を始めました。

種岡君：私は、12月に大学で行われた「就職活動集中対策講座」から本格的に活動をスタートしました。私は結構、人見知りしやすいタイプで、模擬面接指導を中心としたセミナーへの参加は正直怖かったです。いざ出てみると、すごくインパクトがありました。自分のできなさ加減が人と話すことによって思い知らされたこと

ええることは、私生活でも学校生活でも何か気になったらチャレンジすることだと思えます。私は面接で何を聞かれても、自分の経験が引き出しになって、楽しく会話ができました。

▲企業研究セミナーの様子

が、企業訪問やインターンシップに積極的に参加していく原動力になったような気がします。

源通さん：私は、3月解禁を純粋に受け入れました。3月に新潟で開催された合説からスタートしました。ただ、動機は弱かったんですが、私なりに「スタートを切らなくては」と思えたのは、2月初旬に学内で開催された「企業研究セミナー」でした。解禁前に企業の担当者とお話しできたことは大きかったと思います。

「今シーズンのスケジュールを守ってスタートした源通君に聞きますが、広報解禁から選考までの流れはどのような感じでしたか。」



渋谷 翔太さん
栃尾高校出身

種岡君：面接が8月1日からです。私は金融機関も就職活動していたのですが、地方銀行で一社だけ守っていたように思います。

源通さん：私も一社だけあります。地元富山の自動車販売会社は守っていました。

川上さん：私の就職活動がたまたまこのスケジュールだっただけで比較しても仕方ないというか：気にしませんでした。スタートも特別早くなかったですし。一つ言



するわけではないですが、履歴書にも書けるし、アピールにもなりますね。

「正直、目先のテクニック的な議論になるのかなと思っていましたので、良い意味で期待を裏切られました。皆さんの意見を要約すると、スケジュールの変更程度のこととに一喜一憂するのではなく、まずは「学生生活に積極的に取り組みなさい」という事だとおもっています。このことは、就職課が入学後のガイダンスで最初に伝える基本です。今回の座談会の主旨からは外れていますが、就活の本質を再認識する良い機会となりました。在学生にしっかり伝えていきたいと思えます。4年生の皆さん、本日は貴重なお時間をいただきありがとうございます。」

4年生の皆さん、ありがとうございました。今後一層のご活躍を期待申し上げます。就職課一同

Back to School (生涯学習センター)

平成27年度 新潟産業大学 聴講講座 受講者数一覧

講座分類	講座名	受講者数	学期合計人数	年度合計人数
対策講座	TOEIC受検対策講座(春)	4	春学期 4	9
	TOEIC受検対策講座(秋)	5	秋学期 5	
外国語科目	英会話A	1	春学期 22	40
	英語演習A	4		
	英語講義A	3		
	英語表現A	1		
	韓国語会話A	4		
	基礎韓国語会話A	1		
	基礎中国語A	2	秋学期 18	
	中国語演習A	5		
	中国語会話A	1		
	英会話B	2		
	英語演習B	2		
	英語講義B	4		
教養科目	英語表現B	1	春学期 16	20
	韓国語会話B	2		
	基礎韓国語会話B	1		
	基礎中国語B	2		
	中国語会話B	4		
	社会学	1		
	心理学	4	秋学期 4	
	数学	2		
	世界史概説	2		
	地誌	2		
	日本国憲法	1		
	民法I	3		
人文地理学II	2	秋学期 4		
生涯学習概論	1			
男女共同参画社会論	1			

※聴講講座 週1回90分授業 14回～15回開講で1科目1万円(友の会会員は8千円)

講座分類	講座名	受講者数	学期合計人数	年度合計人数
教養科目 (教養演習)	アメリカ事情と英語	4	春学期 10	19
	モンゴル文学と草原	2		
	奈良美術への誘いI	4	秋学期 9	
	満州国とモンゴル	2		
	環境とエネルギー	1		
奈良美術の世界II	6			
基礎科目	ヘルスサイエンス	3	秋学期 3	3
体育実技	スポーツ実習A(卓球)	1	秋学期 1	1
専門科目	越佐文化論	5	春学期 19	33
	欧米文化事情	3		
	国際金融論	2		
	財務諸表論	1		
	食文化論	2		
	西洋の芸術	2		
	中国文化事情	1		
	日本の芸術	1	秋学期 14	
	日本史I	1		
	簿記I	1		
	簿記II	1		
	フードビジネス論	1		
	韓国文化事情	1		
	金融論	1		
	経済成長論	1	秋学期 14	
	東洋の芸術	1		
	日本の伝統芸能	2		
日本経済論	1			
日本史II	1			
比較文化論	3			
簿記演習I	1			
平成27年度延べ受講者数			春学期 71	125
			秋学期 54	

地域連携センター

新潟産業大学は、本学の教育・研究成果を地域社会に還元し、本学が地域とともに発展して行くために地域の諸組織・団体等と連携し、地域活性化を計画的かつ組織的に推進するための拠点として、地域連携センターを設置します。

従来以上に地域との連携を深め、地域に貢献する大学として機能するため、地域連携センターには以下の役割を持たせました。

1. 地域連携及び地域貢献活動の企画立案
2. 地域連携の窓口
3. 聴講講座、公開講座、公開講演会等の企画
4. 本学の教員・学生・職員による地域貢献活動の支援
5. 地域連携及び地域貢献に関する調査・研究

これにともない、新潟産業大学生涯学習センターの機能は、今後は地域連携センターが役割を担うこととなります。

平成27年度における新潟産業大学の地域連携事例をお知らせします。

金ゼミナールが産学官コラボの商品を開発販売

金光林教授が指導するゼミナールが2014(平成26)年の十日町ビジネスコンテストで提案し、本選で3位に入選したビジネスプランが今年の5月に商品化されました。柏崎市と十日町市、そして両市の企業や団体の協力支援を得て実現した、地域を超えた産学官コラボ商品です。

商品は、雑穀と木の実を練りこみ縄文時代の土器を象ったクッキーと十日町産のハーブティーを組み合わせたクッキーセットです。この商品には2020年に開催予定の東京オリンピック・パラリンピックで、十日町市出土の火焰型土器が聖火台のデザインモチーフに採用されることへの願いが込められており、金ゼミは、商品のコンセプトやストーリー、ネーミングやイメージキャラクターのデザインを考案しています。

十日町市を中心に一般に発売されたこのクッキーは、好調な売れ行きを見せています。また11月1日に開催された十日町市市政10周年記念式典においては、記念品として参加者に配られました。



まちかど研究室が、柏崎を活性化させる様々な試み



本学と新潟工科大学の学生が連携して取り組んでいる「まちかど研究室」(権田専任講師担当)は、今年度で4年目を迎えました。当初「空き店舗を利用した商店街の活性化」というテーマから始まった「まち研」ですが、2大学の専門性や学生ならではのアイ

デアと行動力を生かし、現在では柏崎市全体を元気にする大きな原動力の一つになっています。

【子どもたちと一緒にまちづくり】

小学生と柏崎のまちづくりを考えるワークショップを開催したり、柏崎市の中心商店街を舞台にした「スタンプラリー&オリエンテーリング」を企画し、子どもたちの愛郷心を育む取組を行いました。

【大学生の視点からまちづくり】

大学のゼミや授業単位でプロジェクトを実行し、地域通貨の普及研究や高校生のための勉強スペースの運営、地域経済に関する調査、清掃活動、廃食用油を使った再生可能エネルギーの研究等、各大学の専門性を生かした研究を行いました。また、地域が若者からの提言を期待するワークショップ等に積極的に参加しました。

【市民が参加するまちづくり】

これまでに4回の「かしわざき最高プロジェクト」の企画運営を成功させ、各回とも柏崎の魅力を伝える素晴らしい作品が集まりました。今年実施した第4回は「柏崎の祭り」をテーマにした写真コンテストを行いました。

また、定期的に高校生や市民向けのミニ公開講座、セミナーを開催しました。今年度は、Illustrator講座、中国語サロン、建築模型の制作体験講座、3Dプリンタ体験講座等を実施しました。



中国語講座を各地で開催

新潟県立魚沼テクノスクールにおいて、魚沼市や南魚沼市、十日町市など県内外7市町村を圏域とする雪国観光圏の観光客を対象に、「中国語を用いた雪国観光圏おもてなし講座」が開催されました。

雪見物等のために冬場に増加する中国や台湾からの旅行客に対応するため、本学の詹秀娟教授が講師として招かれ、「おもてなし」スキル向上を図りました。

参加者は、接客マナー、ホスピタリティ等を学び、そのなかでも簡単な中国語を用いたコミュニケーションの実習が、実用的に使えると好評でした。



また、詹教授はまちかど研究室においても2回のミニ公開講座「気軽に中国語に触れる」、「中国語でテレサ・テンを歌いましょう」を担当し、地域の国際交流に貢献しています。

友の会意見交換会

11月1日(日)の学園祭に合わせ、本学生涯学習センター「友の会」会員と、学長、生涯学習センター長、聴講講座担当教員による意見交換会を開催しました。会員からは「一般の学生に頑張ってもらいたいし、社会人の方にも大勢参加してもらいたい。」講義の中で先生と学生のやりとりのできる双方の授業をやってほしい。「公立大学法人化の要望の話も聞いて良かった。」など多くの意見をいただきました。



かしわざき市民大学

柏崎市が主催する「かしわざき市民大学」では、毎年本学教員も講師を務めています。今年の後期講座では、本学2年生の山岸春香さん(文化経済学科)、穴澤伶奈さん(経済経営学科)の2人が、講師を務めました。連続講座「かしわざきを知る」柏崎の過去、現在、未来」のトップバッターに抜擢された2人は、市民の皆さんを前に大熱演!「タイムスリップ柏崎」と題して、明治昭和の柏崎の風景と現在の様子とをスライドで比較しながら紹介しました。柏崎出身でない2人は地名や人名を読み間違える一幕もありましたが、そこは柏崎ベテランの受講者の皆さんがやさしくフォロー。「講師」の側が逆にたくさんのお話を教わり、対話形式の和やかな講座となりました。



平成 28 年度入試日程概要 (各学科共通)

入試区分	AO (第3期)	AO (第4期)	自己推薦 (後期)	一般前期日程 (2科目選択)	センター試験利用 (第1期)
出願期間	(エントリー期間) H28.1/4(月)～3/4(金)	(エントリー期間) H28.3/7(月)～H28.3/18(金)	H28.1/4(月)～1/25(月)		H28.1/4(月)～1/29(金)
試験日	(最終面接) 個別に通知	(最終面接) 個別に通知	H28.1/30(土)		
合格発表	個別に通知	個別に通知	H28.2/5(金)		
試験会場	最終面接は柏崎		柏崎	柏崎・新潟	

入試区分	一般後期日程 (2科目選択)	センター試験利用 (第2期)	センター試験利用 (第3期)
出願期間	H28.2/22(月)～3/9(水)	H28.2/1(月)～2/19(金)	H28.3/1(火)～3/11(金)
試験日	H28.3/15(火)		
合格発表	H28.3/18(金)	H28.2/26(金)	H28.3/18(金)
試験会場	柏崎・新潟		

入試の詳細・大学院経済学研究科の入試については、2016入学試験要項でご確認ください。

表紙の写真

「水球部 インカレ準優勝！」

本号「CAMPUS TOPICS」に
詳細記事掲載



今回の日本学生選手権では、目標にしていたベスト4入りを果たし、準優勝という結果を出せて、とても嬉しい気持ちでいっぱいです。今までの辛い練習も皆で乗り越え、チームの皆で掴み取った準優勝だと思えます。

そして、このような結果を残す事ができたのは、大学、水球関係者、そして地域の皆様方の応援があったからだと思います。ありがとうございました。

惜しくも決勝戦では敗れてしまいましたが、来年こそは優勝してくれる事を期待しています。これからも、新潟産業大学水球部が活躍できますよう、皆様ご支援よろしくお祈いします。

(水球部キャプテン 志田康平 (経済経営学科4年))

学事日程 (平成 28 年 1 月～6 月)

平成 27 年度			平成 28 年度 (予定)		
月	日	行事等	月	日	行事等
1月	6日(水)	授業開始	4月	2日(土)	入学式
2月	4日(木)～5日(金)	試験予備日		4日(月)～5日(火)	ガイダンス・健康診断
	10日(水)・12日(金)	追試験		6日(水)	春学期授業開始
	25日(木)	卒業生発表・成績表配付		6日(水)～15日(金)	履修登録期間
	28日(日)	日商簿記検定		8日(金)～9日(土)	新入生学外合宿研修
	29日(月)	再試験		13日(水)PM	履修届カード受付開始
3月	3日(木)	再試験による卒業生発表	5月	2日(月)	7/9 振替休業日
	12日(土)	卒業式	6月	2日(木)	創立記念日 通常授業日
	27日(日)	中国語検定		11日(土)	個別面談・父母の会総会 (予定)

新潟産業大学基金 ご支援のお願い

新潟産業大学では、教育研究活動全般の充実・発展を図るため、広くご寄付をお願いしております。いただきましたご寄付は、「地域社会や企業を主体的に支える人材の育成」という本学の教育理念の達成のために活用させていただきます。

何卒、皆様の格別のご支援をお願い申し上げます。

担当窓口 新潟産業大学 総務課
Tel. 0257-24-6655 Mail : soumu@ada.nsu.ac.jp

編集後記

この地方の今の時期にしては珍しく、12月半ばとなっても雪が降り積もる気配がありません。

雪を待ち遠しく思っている人もあり、少雪を喜びながらも反動がこれから来るのではと懐疑的に状況を捉えている人もあり、様々な気持ちがあると思いますが、挨拶やコミュニケーションのきっかけとして、「今年は雪が降りませんね。」というフレーズが役に立った人が、この冬はたくさんいらっしやうと想像できます。

さて本学が「高等教育機関コンソーシアムにいがた」産学連携部会の平成27年度幹事校を務めることになり、どんな事業を起こそうかと思案していた時、同じく幹事校の他校担当者の方から、関西ネットワークシステム (KNS) から講師をお招きするプランの提案がありました。

産学連携というと、理工系大学の研究室と企業の開発部門との連携、という断片的なイメージしか持ち合わせていなかった私でしたが、最近「官」や「民」や「地域」を巻き込んだ大きな連携関係に注目が集まっていることを知りました。

KNSのお二人の講演はとても興味深く、しかも関西の方らしいウィットに富んだ話術に最後まで魅了されました。あえて普段着姿で新潟を訪れ講演に臨まれたお二人の姿勢は、名前や肩書を脱ぎ捨ててコミュニケーションしたい、という意識の表れであったと思います。

産学官民連携はコミュニケーションから始まる!!

もしかしたら、いつもは口に出さない、朝の何気ない挨拶から、とてつもなく大きな歯車が回ってしまうこともあるかもしれませんね。

新潟産業大学 メディア・広報・企画課



青海波 (せいがいば)

雅楽の舞人の装束に用いられた波形式文様で、同心円状の波を前後左右交互に重ねた幾何学的な文様。

この文様の由来は遠くシルクロードまで遡るとされており、これを本学の校章(3つの波)に重ね合わせ、地域を知り世界を知ることの象徴として、本学の情報発信媒体である学報の名称に採用しました。

●発行日/平成27年12月31日

●編集・発行/新潟産業大学

新潟県柏崎市軽井川4730番地 TEL 0257-24-6655 FAX 0257-22-1300